

今週（3月2日から3月6日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールON物は、試し取りなどの特殊要因を除くと0.727%~0.728%近辺での出会いが中心となった。市場残高は先週に引き続き4兆円強と高水準で推移している。

ターム物については、保険業態による付利水準を下回る運用需要や証券業態による調達需要を背景に、0.7%台前半から1.1%程度の範囲で取引が見られた。特に、3月末越えについては先週に続き資金調達ニーズが強く、1カ月物は0.9%台、3カ月物は1.0%超の水準での引き合いが散見された。

日銀当座預金残高は、週初に約461兆円でスタートした後、2日の国債発行超過や成長基盤オペの期落ち、4日の税揚げ・保険料揚げなどにより大幅に減少する展開となった結果、6日(金)には約449兆円程度での着地見込みとなった。

●債券レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね0.75%~0.755%程度の水準で推移した。
SC個別銘柄では、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全ゾーン横ばい圏で推移した。
6日に実施された3M物入札は無難な結果となり、セカンダリーでも堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、不動産業、石油・石炭、鉄鋼など、複数の業態で大型発行が行われた。
市場残高は、26兆円前半と、先週末対比で5,000億円程度減少した。
発行レートは、0.75%以上で推移し、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/2 (月)	58,057.24	2.060	156.40	0.727	0.750	4,565,500
3/3 (火)	56,279.05	2.125	157.41	0.727	0.750	4,543,500
3/4 (水)	54,245.54	2.110	157.66	0.730	0.750	4,472,700
3/5 (木)	55,278.06	2.155	156.58	0.728	0.750	4,487,000
3/6 (金)	55,620.84	2.160	157.40	0.728	0.751	4,491,000

来週（3月9日から3月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー（※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/9 (月)	1月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TDB6M 3/10発行 38,000億円	流動性供給 3/10発行 6,500億円		
3/10 (火)	1月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10-12月期のGDP2次速報(内閣府 8:50) 2月のマネーストック(日銀 8:50)			1ヶ月借入 3/23借入 7,615億円	2月の米中古住宅販売件数
3/11 (水)	2月の企業物価指数(日銀 8:50)		5Y物 3/12発行 25,000億円		2月の米消費者物価指数 2月の米財政収支
3/12 (木)	1-3月期の法人企業景気予測調査(財務省 8:50)				1月の米貿易収支 1月の米新規住宅着工件数
3/13 (金)		TDB3M 3/16発行 47,000億円	GX10Y物 3/16発行 3,000億円		10-12月期の米GDP改定値 1月の米個人消費・所得支出(PCE) 3月のミシガン大学消費者信頼感指数 1月の米耐久財受注

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/9 (月) 日銀予想	400	▲ 9,700	▲ 9,300	国債補完 社債買入	3,600 ▲ 100		3,500	▲ 5,800	TDB3M発行▲47,000償還43,000
3/10 (火) 弊社予想	800	0	800				0	800	TDB6M発行▲38,000償還35,000 10Y物価 償還7,900 流動性供給▲6,500
3/11 (水) 弊社予想	500	2,000	2,500				0	2,500	
3/12 (木) 弊社予想	500	▲ 25,000	▲ 24,500				0	▲ 24,500	源泉税揚げ 5Y発行▲25,000 交付税借入▲12,500期日10,000
3/13 (金) 弊社予想	▲ 500	5,000	4,500				0	4,500	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、堅調な資金調達ニーズが続くなか、試し取りの影響もあり一時的にやや上振れする場面も想定されるものの、概ね0.727%前後での推移が予想される。ターム物については、0.7%台前半から1.1%程度での取引が中心となることが予想される。債券レポ GC T/N物のレートは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、0.75%から0.755%程度の水準で推移することが予想される。短期市場は、9日(月)に6M物、13日(金)に3M物の入札が予定されている。CP市場は、11日(水)に五・十日の前倒し発行が予定されており、その動向が注目される。

来週の主要なイベントとして、国内では、9日(月)に1月の毎月勤労統計調査速報、1月の国際収支、1月の景気動向指数速報、2月の景気ウォッチャー調査が公表されるほか、10日(火)に1月の全世帯家計調査、10-12月期GDP2次速報、2月のマネーストック、11日(水)に2月の企業物価指数、12日(木)に1-3月期の法人企業景気予測調査が公表される予定である。海外では、10日(火)に2月の米中古住宅販売件数、11日(水)に2月の米消費者物価指数、2月の米財政収支、12日(木)に1月の米貿易収支、1月の米新規住宅着工件数、13日(金)に10-12月期の米GDP改定値、1月の米個人消費・所得支出(PCE)、3月のミシガン大学消費者信頼感指数、1月の米耐久財受注などの公表が予定されている。

(※尚、米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。)

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。